

人づくり・まちづくり・幸せづくり

平成24年度 豊田市区長会総務委員会

総務委員会報告書



◆豊田市区長会総務委員会◆

平成24年度豊田市区長会総務委員会

総務委員会報告書

今年度の総務委員会では、昨年同様4つの小委員会を設置して研究を行いました。

自治区間の情報共有によって解決を図れるもの、市へ要望して解決を図るものを別紙にまとめましたので報告します。

また、次年度以降も継続する必要があるものは、継続テーマとして研究していきます。

目次

【小委員会名：研究テーマ】

- 1 防犯委員会：各地区の実情を踏まえた防犯体制の確立 … 1～2 ページ
※ハード面、ソフト面の両方から防犯意識を高める。
- 2 防災委員会：被災時の一人暮らしの高齢者対策 … 3～4 ページ
「昼間又は夜間に一人になる高齢者」
- 3 区長業務検討委員会： … 5～7 ページ
 - ①自治区規模の研究
 - ②配布物（区長便、回覧等）の内容見直し
 - ③各種委員の選任事務の負担の軽減について
- 4 まちづくり委員会： … 8～9 ページ
 - ①若者の定住対策（促進）
 - ②環境美化

1 防犯委員会

◎重吉 祐 ○山崎 義則 岡田 勇夫 夏目 純一
中黒 淑明 萩野 鎮夫 河野 元治

各自治区の実情を踏まえた防犯体制の確立

※A：ハード面、B：ソフト面の両方から防犯意識を高める

1 現状

A：色々な防犯活動が形骸化している。

B：各自治区で防犯活動を実施することで、犯罪が減少している地域もあるが、全般的には増加傾向にある。

2 問題点

A：

① 防犯灯は設置されているが、球切れのメンテナンスがされていないところがある。

② 門灯の不灯が多い。

・門灯を点けないで暗いから防犯灯を設置して欲しいと依頼がある。

③ 部品盗難、車上荒らしが多い。

④ 犯罪データが解析され有効な施策が打たれているか疑問である。

B：

① 児童の登下校時の被害（誘拐や痴漢等）が発生している。

② 自治区間における相互活動が図られていない、もしくは、少ない。

③ 住民が自分自身の身になって防犯を考えていない。

④ 防犯啓発活動が少ない。

3 改善提案

A：

① 防犯灯は、定期的な巡回及び住民が意識して修理を依頼し、早急にメンテナンスを行う。

・区長のフォローも大切である。

・省エネ化（LED化）の推進も必要である。

② 門灯の終夜点灯の推進・・・回覧等で周知徹底する。

③ 青パトの活動範囲を広げるとともに回数の増加を行う。（2回／週→3回／週）

例：・不定期巡回やパトロール隊を増加させる。

・防犯カメラ（平成25年6月条例施行予定）、センサーライトの設置

④ 犯罪データを解析し、それに基づく防犯施策を推進する。

- 例：・どの地区、どのような犯罪、どのような手口等のデータに基づく啓発
・防犯カメラ、センサーライトの設置
・110番ブザーの作成配布

B：

① 登下校時に育成会、PTA役員が当番制で立哨活動を行う。

例：老人クラブ、女性会等の定期的な活動

② 各自治区の防犯テーマを横展開し、各地区で定期的な情報交換を開催する。

例：モデルハウスで実施した防犯診断の資料等を活用し横展開を図る。

③ 区民全員が防犯意識向上のために参加する仕組みづくりをする。

例：全員参加の「パトロール編成」など

④ 講習会を実施する。

- 例：・交流館単位（1回／年）、各自治区単位（1回／年）で実施する。
・面白味のある催しを導入し、参加しやすい工夫をする。

⑤ 中山間部の通学路整備を推進・見直しをする。

2 防災委員会

◎峯 光義 ○福田 昌夫 大澤 鉦之 磯谷 鐘夫 都築 昌巳

被災時の一人暮らしの高齢者対策

「昼間又は夜間に一人になる高齢者」

1 現状

- ① 区民台帳（要援護者台帳含む）が完成されていない。
- ② 避難場所・避難経路の周知が不足している。
- ③ 昼間又は夜間に一人になる高齢者がいる。

2 問題点

- ① 区民台帳が整理されていない。
- ② 避難訓練の宣伝不足
- ③ 避難場所への経路を区民が掌握していない。
- ④ 民生委員との情報交換が出来ていない。
- ⑤ 災害時に消防団へ援助を求めても、団員不足で対応の期待が薄い
 - ・自治区内で団員募集（チラシ等）しても、入団者がいない状況
 - ・団員に登録しても、訓練等に参加できない人もいる
 - ・自治区からの消防団への負担金が多い

↓

消防団を持つことが今後可能か

自主防災組織を強化して消防団から引き継げないか

3 改善提案

- ① 区民台帳の整理については、転入・転出・訃報・結婚等、異動を受理した時点で記録し修正を行う。また、独居老人に対しては、身内の連絡先、交友関係も記載する。
 - ・区民台帳の管理について：区長が自宅管理する方法
書庫に入れ、鍵で管理する方法 等
考えられるが、次年度も継続して検討する。
- ② 避難訓練のPR方法については、自治区回覧等で案内の強化を図る。また、可能な自治区は当日の町内放送を行う。
防災訓練等を含め自主防災会の組織強化を行う。

- ③ 避難場所への経路を示すためには、避難訓練当日の案内板に矢印「⇒」で表記し、間違いをなくす。また、避難場所を含めた経路を掲示板に表示する。
- ④ 民生委員との情報交換にあたっては、民生委員に自治区の行事に参加してもらう。また、自治区が掴んだ民生委員に必要な情報を常に渡し共有する。
- ⑤ 防災委員会で消防団に対する考えを話し合った結果、消防団員の減少や複数の自治区合同の分団では自治区に一人も消防団員がいない所もあることから、自主防災会の機能を強化し、現状の消防団員を含めて自主防災会が消防団の持つ機能を引き継げると良いのではないかという意見等が多数あった。

3 区長業務検討委員会

◎藤井 昇 ○神谷 信竹 岡田 幸男 尾野藤 俊治
山内 政司 成城 丈夫 藤本 啓司

自治区規模の研究

1 現状

各地域によって自治区の規模に大きな差がある。

最小は8世帯から最大は3,955世帯と約500倍の違いがある。

2 問題点

規模の大小に係わらず区長としてやること（業務範囲）は同じ、又自治区の財政上には大きな差がある。

ア 事務所がなく自宅が代わりとなっている。

イ 事務員を置くことが出来ず、区長、役員の負担大で区長のやり手がない。

ウ 事務のOA化が出来ない。

エ 市からの依頼業務が多すぎる。併せて地元からの要望、問題解決への対応で手一杯である。

オ 規模の小さい自治区はイベントを開催することが困難である。

例：運動会、盆踊り等

カ 小自治区の合併は出来ないか。

3 改善提案

① 業務の効率化を図るため、市からのOA機器の貸与

② OA機器の講習会を実施する。

③ 市からの依頼業務内容の見直し

「何でも区長」ではなく、本当に区長が成すべきものなのかを検討する。

④ 規模の小さい自治区の合併は、各自治区の歴史、経済的な理由、住民感情があり、とても無理である。

・問題なく行っている自治区は、そのままで良い。（合併協議が住民による自然発生的に行われたほうが良い。）

配布物（区長便、回覧等）の内容見直し

1 現状

- ① 市、学校、福祉団体等からの配布物が多すぎる。
- ② 発行時期がバラバラなため、組長に配布したあと、再度配布しなければならない。

2 問題点

- ① 各団体、市からの配布物発行時期がバラバラである。
区長以下各役員が二重三重の手間となっている。
- ② 似たような情報が多い。
- ③ 全体に情報が多いため、回覧等を読まずに回してしまう。
- ④ アパート、マンションの若い人は、昼間不在が多く、回覧に時間がかかる。
- ⑤ アパート、マンションの住民との接触、会話の機会が少ない。（セキュリティ等がしっかりしている。アパート管理会社は個人情報の関係で住民の情報を教えない。）

3 改善提案

- ① 配布物について、各種団体バラバラで区長宅に届けているものを集約して届ける。
2回／月に集約して欲しい。
例：区長便、広報と併せて届ける。
- ② 情報は出来るだけ広報に掲載して重要なもの以外は発行しない。
（回覧情報にメリハリを付ける。）
- ③ 市、コミュニティ、支所のホームページの有効活用
I Tの時代でもあり、インターネット、携帯電話による積極的な情報提供
- ④ 市、支所での配布情報の全体把握と配布物の取捨選択
（チェック機関を設ける。）

各種委員の選任事務の負担の軽減について

1 現状

各種委員の選任が全て区長宛に依頼されている。

2 問題点

- ① 選任について区長であっても全て区民を把握しているわけでもなく、人柄、家庭の事情を知るべくもない。
- ② 各種役員の任務、選任条件が現在の社会環境変化に対応していなく、条件に当てはまる人を見付け出すことは大変難しい。
例：年齢は50歳以下…勤務に影響する。
休日に掛かる日数が多い。
家庭サービスができない。

3 改善提案

- ① 各種委員の選任については、市、諸団体等の方が適任者の情報を多く持っている。
担当課、諸団体での選任が望ましい。
- ② 委員選任の条件の見直しが必要（選任の幅を広げる。）
例：「年齢条件65歳まで」では現役で働いている方が多い。
- ③ 報酬の見直し
現代の人はボランティアの魅力が薄く、ある程度の実入りを期待する。
市からの要請による選任委員は手当（統一単価）を支給する。
- ④ 委員の定員を増やし負担の分散を図る。

4 まちづくり委員会

◎鈴木 康爾 ○中山 拓大 大槻 恒三 中村 祥郎
中根 計二 小野 忠 酒井 保彦 小木曾 篤男

若者の定住対策（促進）

1 現状及び問題点

若者定住対策

- ① 現状では、建築40年以上の空き家が多く、かなりの改造をしなければ入居できない。
- ② 補助金で改造し入居したが、集落とのお付き合い、環境になじめないなどの理由でトラブルが発生したりしている。事前の調査聞き取りなど慎重に行うべきである。
- ③ 過疎地域の活性化には、町内外からの若者の定住が即効策と考えられている。受け入れる地域の理解も必要、生活環境の改善も必要、生活の利便も大事なことで、まず、ひとつずつ解決しなければ定住対策は進まないのではないかと。
- ④ 若い人たちの住む住宅がない。
低家賃の市営住宅、分譲住宅それらを開発するにも、指定規制があり緩和策はないだろうか。

2 改善提案

- ① 築年数に関係なく、入居者を増やすため修理費補助の上限を上げることと同時に行政からの融資制度の緩和をお願いしていく。
- ② 荒廃農地の転用を促進し、住宅用地として活用できるように関係法令等整理していく。
- ③ 継子の帰郷対策として、町外に出て暮している人たちに身近な情報（年間行事等）を発信し、帰郷の頻度を高めてもらう。
- ④ 自治区行事の見直しも必要
若者と集落に住む者（年寄り）との生活様式が変化している。そこに気づかずにいては、若者は地域の行事に参加しない。まずは、町内外の若者が交流できる場づくりを計画し、住民や地域の良さをアピールしていく。

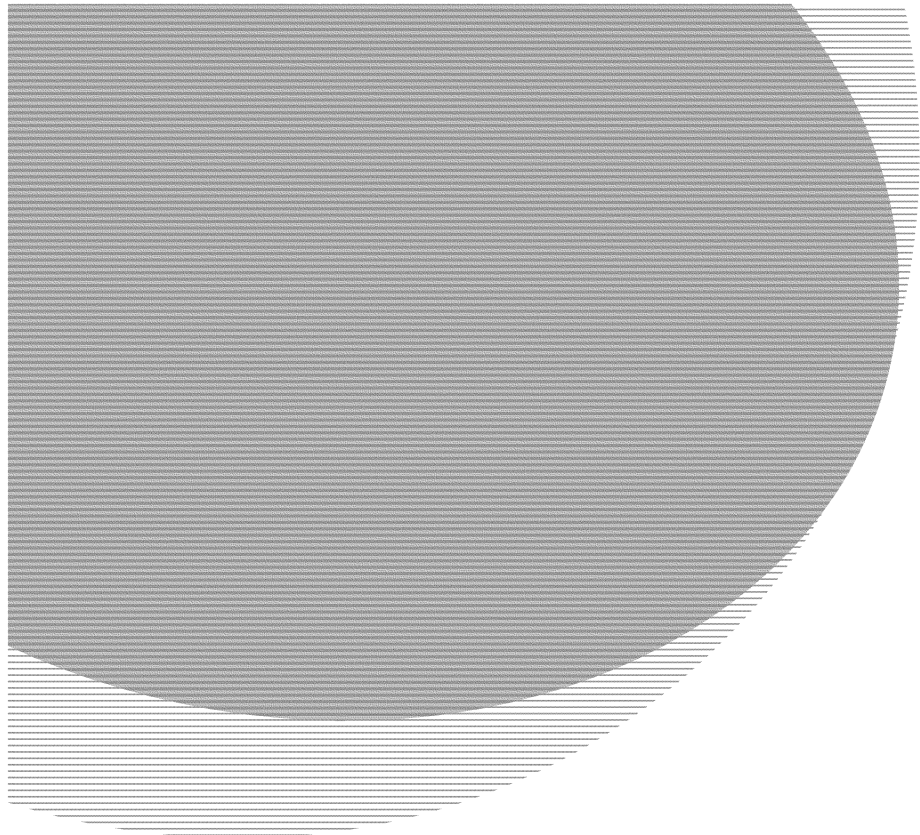
環境美化 綺麗で整った自治区で生活するうえで望ましい環境美化について

1 現状の問題点

- ① 山間地域では、高齢化に伴い耕作放棄地が増加している。更には、イノシシなどの被害が多い。
- ② 市道などの周辺で雑木等が市民生活に支障を与えている。
- ③ ゴミステーション付近では、ゴミがあるからゴミを呼ぶ現象が起きている。

2 改善提案

- ① 休耕農地の有効活用化事業を促進するため、行政の協力を提案する。
- ② 市道の支障木除去については、地域会議を活用し地域と行政が共働して対応する。
- ③ ゴミステーションの美化を進めることや住民の不法投棄のパトロール、ゴミの分別マナーの徹底を図る。



◆豊田市区長会総務委員会◆